

●**ショート・ホップ・ショット：**

ハーフロブ・サーブをライジング・ショットで打つこと

●**スキップ・ボール：**

リターンしたボールがフロント・ウォールに当たる前に床に触れること

●**ストラドル・ボール：**

ボールがボールを打ったプレイヤーの両足の間を通過することを言い、スクリーン・ボールの一種で、レシーバーの視界を防ぎリターンすることができない場合はヒンダーとなる

●**スプラッシュ・ショット：**

サイド・ウォールの近くより打ち、ショットする位置とフロント・ウォールとの中間点付近のサイド・ウォールに当てる。ボールにスピンのかかりフロント・ウォールに当たったとき勢いがなくなり、最初に当たったサイド・ウォールの反対のサイド・ウォール側にはじき飛ぶショット

●**Zサーブ：**

フロント・ウォールの端に強く打ち、1度サイド・ウォールに当ててから床にバウンドさせるサーブ。ボールにスピンがかかっているため、2度目にサイド・ウォールに当たったときボールは意外な方向に跳ね返る。ボールの軌道がアルファベットのZのようになるのでこう呼ばれている

●**Zショット：**

フロント・ウォールの端に強く打ち、1度サイド・ウォールに当てて、床にワン・バウンドする前に反対側のサイド・ウォールに当たるショット。ボールにスピンがかかっているため、2度目にサイド・ウォールに当たった後バック・ウォールとほぼ平行にボールが出てくるためレシーブが難しい

●**センター・コート・ポジション：**

相手の攻撃に対して、最もレシーブしやすくなるポジション

●**ダウン・ザ・ライン・パス・ショット（ストレート・パス・ショット）：**

ショットするプレイヤーとサイド・ウォールとの狭い方へのパス・ショット。サイド・ウォールのより近くに平行に打つのがベスト

●**ドライブ・サーブ：**

フロント・ウォールへ強く低く打つサーブ

●**ドロップ・ショット：**

フロント・ウォールの低い所に弱く打ち、小さくバウンドさせるショット

●**ハイロブ・サーブ：**

フロント・ウォールの高い所に打ち、後ろのコーナー近くのサイド・ウォールに当てるサーブ。ボールは大きな弧を描いてサイド・ウォールに当たった後、勢いがなくなりバウンドが小さくなる

●**ハーフロブ・サーブ**

(ガーベージ・サーブ)：

フロント・ウォールに軽く打ち、ワン・バウンドさせたボールを後ろのコーナーへ返すサーブ。バック・コートでボールが肩以上の高さになるのでリターンはほとんどシーリング・ショットになってしまい、攻撃的なリターンを避けることができる

●**パス・ショット：**

相手の横を抜くように打つこと。相手をバック・ウォール側に下げることできる

●**ピンチ・ショット：**

フロント・ウォール近くのサイド・ウォールへ低く打つことで、フロント・ウォールに当たったボールは勢いがなくなり、床にすぐにツー・バウンドしてしまう

●**フライ・ショット：**

床にワン・バウンドする前のボールを打つこと

●**フライ・リターン：**

サーブされたボールが床に落ちる前に直接打ち返すこと

●**プラム・ボール：**

キル・ショットを打てるような簡単なボール

●**ライジング・ショット：**

ボールが床にバウンドし、上がってくるところを打つこと

●**ロール・アウト：**

キル・ショットがフロント・ウォールの極端に低い所に決まり、ボールが床を転がるように戻ってくること

審判委員会からのお知らせ

昨年度、怪我によるタイムアウトの判定について、判断が難しいという事例がありましたので、JARA審判委員会として、ルールブック上は変更ありませんが、判断基準の参考になるよう補足説明をさせていただきます。

「Rule 12. B. 怪我」の補足

1. 怪我によりレフリーから出されるタイムアウトをインジュリータイムアウトといい、1試合の中で合わせて15分しか認められません。よって、怪我によるタイムアウトもインジュリータイムアウト（出血によるタイムアウト）も同一であり、止血・治療もこの中で行うこととなります。延長はありません。
2. 怪我によるタイムアウトが許されるのは、試合開始後のコート内での怪我によります。開始前の怪我や病気については認められません。
3. 怪我として認められるのは、ボール・ラケットやプレーヤー同士の接触・交錯、壁面・床面との接触による場合で、直接の接触に因らない痛みや筋肉の痙攣・疲労は認められません。よって、自己の責任による怪我については認められません。
4. 怪我によるタイムアウトは、通常のゲーム中に取れる30秒のタイムアウトとは別で、自己のタイムアウトとは関係なく怪我の場合は与えられます。

なお、お問い合わせ及び質問はJARA事務局までお願いします。

審判委員会からのお知らせ

3フィートゾーン・ライン・バイオレーションについて

プレーヤーの方から質問がありましたので解説いたします。
ドライブサーブを打つ際に、体もしくはラケットスイングが3フィートゾーンに入った場合はアウトサーブとなります。
国際ルール上でも、「3フィートゾーン・ライン・バイオレーション」はスクリーンサーブとは異なる定義がされており、
ツーサーブルールの時代は 「フォルトサーブ」
ワンサーブルール（現在）は 「アウトサーブ」
となっています。

J A R A ラケットボール公式ルールブック抜粋

R u l e 6. アウト・サーブ

次のサーブはアウトになる。
< R u l e 6. A. フット・フォールト ～ R u l e 6. Q. セーフティ・ゾーン・バイオレーション >
以上は省略

R u l e 6. R. 3フィート・ライン・バイオレーション

3フィート・ゾーン内を通過するサーブ（Zサーブ、ロブサーブは除く）を打つときには、サーバーの身体およびラケットは、いかなることがあってもサーブ開始時（明らかにフロント・ウォールに対してボールを打つ動作を開始したとき）よりボールがショート・ラインを越えるまでの間、ボールが通過する3フィート・ゾーンを侵すことができない。

審判委員会からのお知らせ

タイブレークについて

タイブレークの試合について、以下の点をご留意の上、試合進行をお願いします。

JARAラケットボール公式ルールブック抜粋

■Rule 2. サーブ

サーブはワンサーブとする。

Rule 2. A. サーブの順序

トスで勝ったプレーヤーないしチームが、第1ゲームで最初にサーブを行うか、レシーブにするかを選択する。第2ゲームはその逆になる。タイブレークは、第1ゲームと第2ゲームの合計得点の多い方がサーブないしレシーブの選択を行う。もし同点ならトスで決める。

JARAのルール上では上記のような規定があります。

文面上、「トス」という文言は、JARAは「ジャンケン」を取り入れておりますので同点の場合は「ジャンケン」で決めてください。

なお、「勝った方」の選手は、「サーブ」「レシーブ」を選択する権利があるとしてルール上の規定があります。

「サーブ」にするか、「レシーブ」にするか、必ず「声」に出して審判に伝えてください。

審判はジャンケンで勝った選手にどちらを選ぶか必ず聞くことを義務つけてください。

皆様のご理解をお願いします。

審判委員会からのお知らせ

昨年度、審判に於ける判定やジャッジについて下記の件についての問い合わせがありましたので、今後の判断基準の参考になるよう補足説明を審判委員会からさせていただきます。

1 第2章 D. ラケットの規格

これまで、グリップについて、ラバーグリップを含め厳しく測定した頃がありましたが、近年、ソフトなゴムのグリップなども使用され、IRF主催の世界選手権やワールドゲームズに於いても固定されていなければラケット本体からのゴムのグリップのはみ出しを認めているため、JARAにおいても同様に解釈し、世界と対等にするためソフトな部分のみのはみ出しは認めることとします。その判断基準として、JARAでは、はみ出した部分が硬く固定されている場合は、固定されたところまでをラケットの長さとし、固定された部分か、ソフトな部分かの判断は、はみ出した部分のみを持ってラケットが使えるプレーが可能であればソフトとは認めず固定されたものとして計測します。よって、はみ出していることによって有利を得ると判断されることがないようにしなければいけないのは当然であり選手の義務であります。

2 第3章 Rule 2. D. サーブの準備

「レフリーは前のプレーが終わったら、しばらくしてサーバーとレシーバーがそれぞれのポジションに戻り、準備をするようにスコアをコールする」とあります。これだけでは、コールのタイミングが掴みにくいと思われるので目安を説明します。

- ①プレーが終了し、動きがほぼ止まることなくそれぞれのポジションに戻った場合は、そのままの流れでコールしましょう。
- ②プレーが終了してもそれぞれのポジションに戻らない場合は、待たないで、遅延行為に繋がりますから、大きく一呼吸間を置いて準備をするようにコールしましょう。
- ③10秒ルールはコール後に適用されますので、ラケットを頭上に上げてホールドしていても待たないでコールを先にしましょう。

3 第3章 Rule 12. A. タイムアウトの時間

タイムアウトは、レフリーが、選手から依頼を受け、タイムアウトを認めた場合「タイムアウト」とコールしてから30秒計測して下さい。選手がコートを出てから30秒ではありません。

特定非営利活動法人 日本ラケットボール協会
審判委員会



特定非営利活動法人 日本ラケットボール協会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-26-3 第二東商ビル402号
TEL.03-5713-3866 FAX.03-5713-3867
URL <http://www.jara-npo.org/>
E-mail jara@jara-npo.org